

平成25年度 学校自己評価システムシート (県立富士見高等学校)

目指す学校像	生徒一人一人に行き届いたきめ細やかな指導を行い、地域に開かれ信頼される学校
--------	---------------------------------------

重点目標	1 生徒理解に基づきながら、生徒の基本的な生活習慣や規範意識等の育成と指導の徹底を図り、自立心を育む。 2 特進クラスなどクラス編制等や授業展開の工夫等により、学習指導体制を充実させ、生徒個々の確かな学力の定着と学力向上を図る。 3 地域社会との連携を深め、社会の一員としてたくましく生き抜く心と身体を育み、地域の核となる学校づくりを推進する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	6名

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 6 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	組織的な生徒指導により地域に信頼される学校となってきたが、規範意識や基本的な生活習慣の確立が不十分で、遅刻や学力不振を経て、問題行動や中途退学につながっていく生徒も見られる。 生徒の自立心を育むために、全校あげて継続した粘り強い生徒指導を実施するとともに、中途退学を防止するため、学年分掌等が連携した教育相談体制の充実が必要である。	・生徒の基本的な生活習慣を確立させ、中途退学者数を減少させる。 ・生徒の規範意識を高め、生徒指導件数を減少させる。	①立哨指導や遅刻指導を通じて生活習慣の確立に取り組む。 ②部活動や社会貢献活動(1年生対象)を通じて生徒の学校生活への目的意識を育む。 ③学年担任と教育相談委員会等が連携を密にして生徒の不登校の防止に取り組む。	・欠席者数、遅刻者数の前年度比減少 ・皆勤者数の前年度比増加 ・中途退学者数の前年度比減少 ・部活動加入率の前年度比増加	概ね達成できた。 ①皆勤者数は昨年並みの数値を維持するとともに、組織的な遅刻指導により遅刻率は若干ではあるが減少した。 ②部活動加入率は若干増加し、1年生全員が社会貢献活動に取り組んだ。 ③中途退学者率は前年度とほぼ同程度であった。(3月18日現在)	B
			①校内巡回を実施するとともに、家庭との連携を密に行い、問題行動の未然防止に取り組む。 ②携帯安全教室や非行防止教室、薬物乱用防止教室、毎学期の全校集会を通じて生徒の規範意識を育む。	・生徒指導件数の前年度比減少	ほぼ達成できた。 ①生徒指導件数は前年度より減少した。 ②4月に携帯安全教室、6月に非行防止教室と薬物乱用防止教室を実施した。また、毎学期全校集会を実施し、規範意識を育んだ。	A
2	少人数学級編制や国語、数学、英語の習熟度別授業により個に応じた丁寧な指導を実施してその効果が現れてきている。落ち着いた授業を受ける雰囲気はできているが、授業に集中できず、意欲的に学習に取り組めない生徒も見られる。 生徒の進路希望を実現させるために、生徒の実態に応じた授業や補習を実践し学力を向上させるとともに、生徒の進路意識を高める必要がある。	・生徒の学力を向上させる。 ・進路行事を通じて生徒の進路意識を向上させ、進路決定率を高める。	①授業公開週間や『未来を拓く「学び」推進事業等を通じて、教員相互の授業研究を推進し生徒の実態に応じた授業実践に取り組む。 ②定期考査前や長期休業期間に補習を実施し、基礎学力の定着を図る。 ③各種検定試験の受験を奨励し、学力の向上を図る。	・成績優良者数の前年度比増加 ・成績不振者数の前年度比減少 ・資格試験受験者数および合格者の前年度比増加	概ね達成できた。 ①2回の授業公開週間の実施や『未来を開く「学び」推進事業』研究推進委員2名による公開授業・研究協議等を通じ、授業改善に取り組んだ。 ②通常の授業におけるきめ細やかな学習指導、さらに定期考査前や長期休業期間の補習の実施により成績不振者数が減少した。 ③漢字検定、英語検定、ビジネス文書実務検定等を実施し、多くの合格者を出した。	B
			①就職支援アドバイザーの活用や就職企業の開拓を進め、就職内定率を上げる。 ②進路行事やLHRを通じてキャリアガイダンスを実施し、生徒の進路意識の啓蒙を図る。	・就職内定率の前年度比増加 ・大学進学者の前年度比増加 ・進路未確定者数の前年度比減少	ほぼ達成できた。 ①就職支援アドバイザーによる指導や企業開拓等により、1名をのぞく就職希望者全員が内定を得た。 ②各種進路行事の実施により、進路意識が高まり、3年生の進路未確定者が前年度より5名減少した。	A
3	学校訪問、学校説明会、近隣学校との交流、ホームページ等による情報発信などを通じ、本校の教育活動に対する理解が進み、地域の学校になりつつある。 地域の評価と信頼をさらに高めるために、地域との交流と広報活動の強化に努め、安定した生徒募集につなげる必要がある。	・社会貢献活動の推進に向けて、地域との連携をさらに深める。 ・本校の理解が深まる情報を積極的に発信する。	①近隣学校との交流を実施する。 ②各種地域行事等への参加を奨励する。 ③近隣大学や短大、地元企業との連携を強化する。 ④地域清掃活動を実施する。	・近隣学校との交流回数 ・地域行事への生徒参加人数 ・大学教授の学校評議員への委嘱 ・地元企業や商工会議所への訪問 ・地域清掃の毎学期実施	ほぼ達成できた。 ①5回の近隣学校との交流会にのべ73名の生徒が参加した。 ②1年生74名がボランティアとして地域行事に参加した。 ③近隣大学教授を学校評議員に委嘱するとともに、地元の商工会議所等を訪問し、地域との連携を強化した。 ④毎学期地域清掃活動を実施した。	A
			①HPやメール配信システムによる情報発信を定期的に行う。 ②全職員による学校訪問を実施する。 ③学校説明会、体験入学を実施する。 ④季刊広報誌「ファミ・インフォメーション」を発行する。	・HPの更新回数 ・保護者のメール登録者の前年度比増加 ・学校説明会、体験入学参加者の前年度比増加 ・入学志願者の前年度比増加 ・「ファミ・インフォメーション」の年4回市内への回覧	ほぼ達成できた。 ①定期考査1週間前を知らせるメールなど11回の情報メールを配信した。 ②7月と11月に全職員による学校訪問を実施した。 ③学校説明会(3回)や体験入学(2回)の実施により、本校への理解が進み、入学志願希望者数が増加した。 ④「ファミ・インフォメーション」をこれまでに3回発行し、地域の自治会等に回覧した。	A

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成26年2月12日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>・学校全体が落ち着いているのが何よりである。異装も見られないし、素晴らしい。 ・落ち着いて勉強している。生徒が真面目である。「ありがとうノート」が設置されていたが、非常によい試みである。その反面、中途半端な部分を感じられる。部活動を特化してでも応援する体制などをつくり、ランクアップを図れるとよい。 ・欠席、遅刻など将来に向けて大切であるということを指導してほしい。 ・生徒数が増えている状況があるので、評価指標を「退学者数」でみるよりも「退学率」でみた方がよい。</p>	
<p>・授業は全体的に落ち着いている。成績優良者、成績不良者ともに減り、真ん中に固まってきている。1年生からどう進路を意識させ学習に取り組ませるか、具体策をどう立てるか来年度の課題ではないか。 ・生徒の学力の向上は、先生方の質の高い授業、魅力的な授業にかかっている。教科別に授業アンケートを実施するなど、授業改善に取り組んでほしい。 ・キャリア教育は早ければ早いほどよい。目的意識を持たせると学力は向上していく。目標を明確に自覚させ、進路を実現させることの重要性を1年生から意識付けしてほしい。</p>	
<p>・富士見高校の印象、評判は年々良くなっている。生徒たちの通学の様子、マナーなどを見てそう感じている。地域にアピールし、学校を実際に見てもらおう工夫をしたほうがよい。 ・社会貢献、地域貢献は生徒を成長させる。また、進路を考える一つの機会になる。目的意識を持って地域活動に取り組むよう生徒に働きかけてほしい。生徒会の活動として、地域活動への参加を呼びかけるのもよいのではないか。 ・保護者一斉メール配信システムの登録者が少ないようである。もっと登録者を増やした方がよい。 ・ホームページのさらなる活用をすべきである。</p>	